

事後評価報告書

1. 研究課題名：

細胞内抗原徐放型ナノキャリアによる新たなワクチン療法の開発と免疫活性化機構の解明

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：大阪大学 明石 満

2-2. 瑞国側研究代表者：ルンド大学 Carl A.K.Borrebaeck

総合評価： 秀

3. 研究交流実施内容及び成果：

双方の研究代表者は、2007～2008 年度に共同研究で、各種抗原物質を γ -PGA ナノ粒子に内包させ免疫細胞内で徐放させることにより免疫機能を活性化する新規のワクチン療法を開発した。一方、本事業の目的の一つである国際交流および若手研究者育成に関して、本プロジェクトでは、両国の若手研究者や博士課程学生が共に相手国を複数回訪問し、計画を上回る回数 of 合同セミナーも実施されており、若手研究者の育成に貢献したと評価できる。

最近の内閣府のアンケート調査の先端研究開発において最も国民の関心ある技術は、がんの治療薬であった。がんにも有効な治療薬としてのがんペプチドワクチンの開発にも繋がるのが期待される。

4. 事後評価結果：

4-1. 総合評価

γ -PGA ナノ粒子を利用した DDS 技術を用いた新規のワクチン療法を開発し臨床試験での有効性と安全性の確認が待たれる。大腸癌の治療薬への応用も計画されているが、国内外でも、がんペプチドワクチンの開発競争が激化しており、この分野での臨床試験での結果も期待される。

4-2. 研究交流の有効性

協力目的が明確で具体的であり、成果が上がったことは高く評価できる。相互交流も多数回行われ頻繁で人材育成効果も高かったと思われる。

この分野の若手研究者の育成にも大きく貢献している

4-3. 当初目標の達成度

従来からも交流があったが、本事業によりさらにその高度化がはかられた。

共著論文もありまた日本側研究者は多くの国のファンドを獲得して研究が進んでおり、これらを契機にさらに共同研究が深化することが期待される。

両グループの相補的協力によって、ナノキャリアによる樹状細胞内への抗原の除放という新しい免疫治療技術開発の新分野・新技術開発の成功に向けた成果があがった。